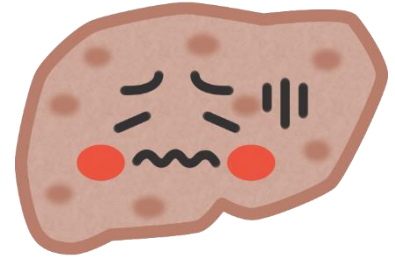


肝炎ウイルス検査を受けましょう

日本における肝炎のほとんどがウイルス性肝炎です。
原因となるウイルスの種類はA型、B型、C型などがあります。
肝炎は大きく急性肝炎と慢性肝炎の2つに分けられますが、
慢性肝炎のうち約80%がC型肝炎です。
肝炎ウイルスは血液検査で確認できます。過去に受けたことがない方は
一度受けることをお勧めします。



A型肝炎ウイルス

汚染された生水や食品を食べることで感染し、急性肝炎を発症しますが慢性化しないため、肝硬変や肝がんの原因になることはありません。

B型肝炎ウイルス

ウイルスに感染している血液(輸血)や体液が体内に入ることによって感染します。一部のケースで慢性肝炎を発症し、肝硬変・肝がんへ進行することがあります。最近では、成人期の感染が増えており、多くが性交渉やピアスの穴開けや入れ墨によるものです。

主な検査	検査からわかること
HBs抗原	<u>B型肝炎に感染しているかどうか。</u> 感染していると陽性(+)になる。
HBs抗体	<u>B型肝炎に対する免疫ができているかどうか。</u> 過去に感染したがウイルスが排除されている場合や、ワクチンを接種すると陽性(+)になる。

C型肝炎ウイルス

B型肝炎と同じく血液(輸血)感染です。C型肝炎ウイルスに感染するとはっきりと症状がないまま慢性化することが多く、長期間にわたって少しずつ進行し、肝硬変・肝がんを引き起こすことがあります。

主な検査	検査からわかること
HCV抗体	陽性(+)の場合、値が高いと現在の感染、値が低いと過去の感染が疑われます。

肝臓は「沈黙の臓器」と言われています。

障害がかなり進まないと自覚症状が現れないため、病気の発見が遅れることが多い臓器です。

異常値を指摘されたら、腹部超音波検査などの二次検査の受診をお勧めします。

当院での受診も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

